

## 第9回「県政ひざづめ談議」概要

○開催日時：平成20年7月31日 14:00～

○開催場所：山梨県立産業技術短期大学校

〔司会〕

皆様お待たせしました。

ただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中でございます。よろしく願いいたします。

始めに横内知事からあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

皆さんこんにちは。

今日は『県政ひざづめ談議』ということで、ざっくばらんに何でも話をさせていただくという場ですから、皆さん方が友達と話をしたり、先生たちと話をするように、何でも思うことを言っていただければと思っております。

皆さんは、この産業技術短期大学校の生徒として、1年あるいは2年学んでいるわけがありますけれども、この産業技術短期大学校に対する県内の企業ですとか、あるいは県民の皆さんの期待が大変に大きくて、皆さんも知ってのとおり卒業した先輩たちの就職率が非常にいいわけですね。例えば生産技術科というところは1人の卒業に対して8つぐらいの企業から応募があるとか、それから電子技術科も5倍とか、あるいは観光ビジネス科も3倍とか、大変に皆さん方の先輩の就職率がいいわけでありまして、それだけ皆さん方がしっかりと勉強し、能力を身に着けているからだろうと思っておりますけれども、しかしその割には入学する人たちが少ないわけでありまして、これは産業技術短期大学校は非常にいい学校であるということが、十分知られていないんじゃないかと私は思っているわけでありまして、皆さん方に対する県民や、あるいは県内の企業の期待が非常に大きいということを皆さんにまず申し上げ、そしてそういう期待に是非応えてもらいたいと思っております。

今日は、どんなことでもいいですから色々と皆さん方が考えていることを私に教えていただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

〔司会〕

本日出席しております県の担当者を紹介させていただきます。

まず、新産業の創出、それから企業などの技術振興を担当しております清水工業振興課長でございます。

次に職業訓練とか支援を担当しております佐野職業能力開発課長でございます。

観光キャンペーンなど、観光の振興を担当しております堀内観光振興課長でございます。

本日は産業技術短期大学校で工業技術とか、それから観光ビジネスを学んでいる学生の皆さんと、「魅力あるやまなし産業の発展を考える」をテーマに、山梨の産業に期待すること、それから山梨の産業をさらに発展させるためにはどんなことが必要か、そういった観点で話し合いを進めていきたいと思っておりますので、是非忌憚のないご意見をお願いいたしま

す。それから意見交換は1時間ぐらいを予定しておりますので、是非全員が発言できるように皆さんでご協力をお願いいたします。

発言する方は手を挙げて、名乗ってから発言して下さい。ではよろしくをお願いいたします。

[知事]

(みんなを見回して)生産技術科はだれですか、手を挙げて下さい。電子技術科は。観光ビジネス科、何となく観光ビジネスっていう顔をしているものね。情報技術科は。そうですか。

何を話してもらってもいいんだけど、何を話してもいいって言われても困るかな。何か質問しますかね。

今、不満な点はどういうことがありますか。校長先生がいるけれど、余り気にしないでいいから。(笑)

[参加者]

私は甲府なんですけど、電車の時間の間隔が長いので、多少生活しづらいです。

[知事]

甲府から塩山まで来て、そして歩くわけですね。歩くのにどのぐらいかかるんですか。

[参加者]

塩山駅から10分程度です。

[知事]

電車少ないですかね。普通電車は30分に1本ぐらいあるんじゃないですか。

[参加者]

そうなんですけれど、ある時間帯になると50分周期になったり、多少ばらつきがあります。

[知事]

朝は大体甲府の駅を8時ぐらいに出るんですか。夕方は4時か5時頃帰るんですね。電車ももうちょっと頻繁にということもあるかもしれませんが、日中は少ないということかもしれませんね。車はまだ運転はしちやいかんのですか。

[参加者]

私は甲斐市、元双葉町ですけど、車で通っています。

[知事]

双葉町からね。双葉町となるとそうですね。

大体皆さんは電車、車、どっちで通学する人が多いんですかね。車の人、ちょっと手を挙げて下さい。バイクの人、あとは電車通学ということですか。遠い所というところから、例えば富士吉田とか・・・。

〔参加者〕

はい、富士吉田です。

〔知事〕

富士吉田だとちょっと大変だね。車ですか。

〔参加者〕

電車です。でもそんなに大変でもないです。1時間半もかからないですから。

〔知事〕

富士急行で大月まで出てね。

〔参加者〕

そうですね。大月から今度はJRで塩山に。電車でしたら車と違いまして中で色々できますから。

〔知事〕

まあ空いていることは空いてるよね、座れるしね。

不満というのでしょうか、ほかに何かありますか。ガソリンが高くなったとか。

〔参加者〕

道が狭いというか、1車線しかない道が結構多いので、渋滞がどうしても多くなっちゃうので・・・。

〔知事〕

特にこっちの塩山のほうはそうかもしれませんね。双葉からだったらどういうふうに来るんですか。やっぱり甲府市の北側を通ってくるんですか、あるいは20号で来るのかな。

〔参加者〕

科学館の近くのトンネル（愛宕トンネル）を通過して来ます。

その辺がどうしてもいつも行きと帰りの時は混むので・・・。

〔知事〕

それはそうですね、確かにね。これはしかししょうがないよね。

〔参加者〕

以前甲府駅のエクランに買い物をしに行っただけなんですけれども、夏のシーズンということで登山を目的に来る観光客の方がいたんです。きっとクーラーの設定で温度調整していると思うんですけども、あそこは改札口と自動ドアがつながっていて、外からの熱い空気が入ってしまうので、お客様も暑い暑いなんて言いながらお土産をみていたりしたので、温度設定の調節とかはできないんでしょうか。

〔知事〕

それはできるでしょうね、エクランで。

だけど今はもうクール・ビズというか、温暖化で、余り冷房の温度を低くするのもどうかということだし、しかも登山客ということだから余りそういう不満はないんじゃないですかね。今日は県庁なんか冷房が壊れちゃってね、私も2時間ばかり暑い中仕事をしたんです。やってみるとそんなにね、それは暑いけれども我慢はできるよね。

〔参加者〕

甲府駅周辺に買い物に行くんですけど、自由に止められる駐車場が少ないというか、お金がかかったりするじゃないですか。それであまり足がのびないんですけども、無料駐車場なんか増える予定はないんでしょうか。

〔知事〕

確かに甲府の街というのは駐車場が足りないんですよ。だから困るんだけど、今のところまだ計画は、甲府の駅にはないですね。北口のほうには計画があるけれども、南口はあれ以上増えるという計画は今のところないですね。

〔参加者〕

はい、分かりました。

〔知事〕

さて、皆さん方はそれぞれ就職については、ある程度もう考えているんですか、こういう方面に行きたいとか。大体まあ決まるかな。

〔皆で〕

決まっています。

〔知事〕

もう大体会社も頭の中に入っている、この会社というような・・・。

〔参加者〕

内定を・・・。

〔知事〕

2年生はもう内定しているの。じゃあこの4月ぐらいに内定しちゃうのかな、4月、5月ぐらいに。

それはもう言ってもいいんですか。あなたはどこなんですか。

〔参加者〕

蕪崎の日邦プレジジョンという会社です。

〔知事〕

いい会社だね。東京エレクトロンと取り引きがある会社だよね。

あなたは。

〔参加者〕

同じです。

〔知事〕

日邦プレジジョンは優秀な生徒を2人も採ったんだね。2人とも電子技術科ですか。何人ぐらいいましたっけね。

〔参加者〕

16人です。

〔知事〕

ほかに内定している人は・・・。大体2年生はみんな内定しているんですか。もう本当に金の卵だものね。8倍とか4倍とか、観光ビジネス科だって3倍ぐらいだよね。大したものだよね。あなたはどちらへ決まっているの。

〔参加者〕

自分は富士屋ホテルです。

〔知事〕

甲府ですか。

〔参加者〕

いや、まだ場所は決まっていないます。

〔知事〕

それは良かったね。ホテルマンになるわけだね。それはがんばってね。

何人も先輩が知っているでしょう。毎年大体一人、二人というところですかね。

〔参加者〕

そうですね。去年は三人でした。

〔知事〕

待遇がいいということだね。じゃあ英語なんか大丈夫かな。

〔参加者〕

英語はちょっと、苦手と言えど苦手なんですけど、身に着けなければいけないと思います。

〔知事〕

TOEFL とか TOEIC とか、ああいうのはやっていますか。

〔参加者〕

授業の中でとか、外国の先生の授業ではやっているんですけど、実践するとなるとなかなかできなかつたりするので、そういった部分をできるようにしていきたいなとは思っています。

〔知事〕

皆さんを採用する企業の方に、皆さんに対する希望を聞いたものがあるんだけど、これを読んでいるとやっぱり最低限の英語能力、これは観光ビジネス科だけでなく、それぞれ生産技術科も電子技術科も情報技術科も、ある程度の英語能力ぐらい持ってもらいたいと言うんだね。例えば日邦プレジジョンにしたって、エレクトロンと一緒に機械を備えつけるために現地に行ったりするらしいんだね。だからある程度の能力がなければ困ると、こう言っているね。TOEFL で 400 点か 500 点ぐらいはないと・・・。

〔参加者〕

英語は苦手なんです・・・。(笑い)

〔知事〕

英語は苦手か。(笑い)

企業の皆さんから、産業技術短期大学の皆さんへの要望、期待というのを聞いたところ、色々あるけれども、やっぱり前向きな、意欲のある人を欲しいと。もちろん技術は立派な、きちっとしたものを持っていてもらいたいし、それは産業技術短期大学であればちゃんとした教育をするから技術は大丈夫だと。要は前向きの意欲を持っていてもらいたいということが一つと。

それからコミュニケーション能力ということを使うね。やっぱり企業で仕事をするという時にはどうしたって一人でやるわけじゃない、グループで仕事をするわけだから、だからそのグループの中でお互いに協調しながら、同時にそういう中で自分の意見はしっかり言って、しかしグループで決まったらみんなで一緒にやっていくという、そういうコミュ

ニケーション能力というか、協調心ですね、そういう学生さんが欲しいといいますね。だからそのところをよく頭に入れておいて・・・。

それで皆さんは山梨について、不満とかそういうことではなくて、山梨県というものに対してどんなふうな意見というか、こうなってほしいとか、そういうようなものを何か持っていますか。

〔参加者〕

山梨県には情報産業の仕事が少ないので、県内で就職したくても県外に行かなきゃいけない人がいると思うんですけど、もう少し山梨県内でも仕事を増やすようにしてほしいです。

〔知事〕

なるほどね。あなたはもう決まっているんですか。

〔参加者〕

石和のSBCという会社です。

〔職業能力開発課長〕

たくさん採用していただいています。

情報処理の会社です。

〔参加者〕

それでも一回は県内に就職するんですけど、情報系だと東京のほうに行ったりしちゃうんです。

〔知事〕

まあそうでしょうね。やっぱり東京の仕事が多いでしょうね、情報関係はね。ソフトウェアにしても、いわゆるデータセンター的なものとか、あるいはコールセンター的なものとか、大体東京の仕事ですよ。やっぱり山梨県は情報産業が割と少ないんですよ。企業の数からいっても、あるいは働いている人の数からいっても山梨県というのは情報産業の数が少ない。だからこれは一つの課題ですけどね。

そういうことで甲府の駅の北口にかなり広い県有地があってね、駅のすぐ前に。そこに県立図書館をつくるんですよ。それだけじゃまだ土地が余るものだから、そこに高度情報拠点としてインテリジェントビル、情報化ビル、これを民間の活力でつくろうとしています。

そこに県外からも情報産業を誘致したり、あるいは県内の情報産業でそこに入りたいものは入ったりということで、そういう情報産業の拠点にしようと思って、これが3年か4年後ぐらいにできると思うんだよね。

東京から山梨へ進出してこようという情報産業は割と多いんですよ。なぜかと言うと、結局東京の情報産業というのはどんどん成長しているものだから、なかなか採用が難しく

なってきた、東京の近くで、大体1、2時間ぐらいの圏内、例えば前橋、高槻とか宇都宮とか、山梨の甲府とか、このぐらいの所へ情報産業が東京の中心から出てこようとしているわけですね。

だから山梨は割と可能性があるんですよ。もうすでに幾つかそういう企業が来ていますね。だから今のSBCというのはいい会社だと思うけれども、これからさらに情報技術科は採用の希望が大きくなるというふうに思いますね。がんばってください。

やっぱりソフトウェアやるんだろうかね。

〔参加者〕

そうですね。組込み系の仕事につきたいと思っています。

〔知事〕

組込み系ソフトね。

ほかには何か。山梨について思うこと、考えること。

〔参加者〕

小中学校の子どもたちのことなんですけど、小中学生は、勉強がしたければ本を買ったり、塾に行ったりできるじゃないですか。でもこういう物づくりとかプログラムのことって、本を見ても親でさえ分からなかったりすると思うんです。塾みたいなのところも少ないというか、ないじゃないですか。だからそういうことを簡単でもいいから教えてくれる、小中学生を対象にしたものがあつたらいいなと思います。

〔知事〕

なるほどね。物づくりみたいなことについてね。理科とか、そういうものだね。だから科学教室みたいなのところですね。割と都会にはあるよね、科学教室ってね。子ども科学教室なんていって、実験とかそういうものをやったりしてね、多いんだよね。だけど余り聞きませんね、確かに、山梨ではね。

〔司会〕

科学館にはそういうのがありますね。

〔知事〕

山梨科学アカデミーというところでは、例えば山梨大学の先生が、小学校、中学校の総合的な学習の時間なんかに行って、そこで皆さんに燃料電池とか、宇宙の話とか、そういうものを分かりやすく教えてあげるようなことをしてますけど、そういうものは非常に増えてきたんだよね。

あなたが言っているのは、今理工科系離れなんていうことを言われているんだけど、小学校、中学校ぐらいのまだ子どもの頃にそういう理工科系、理科みたいなことを教えてもらおうと、物づくりみたいなことに興味を持つ人たちが増えるんじゃないかと、こういう意味なんだろうと思うんですよ。それはそうですね。

何か、私を見ているけど何かありますか。(笑)

〔参加者〕

僕が言いたいのは、教育体制についてなんですけれども、今までの教育体制って、偏差値重視で、特に教科だと英数国の三つじゃないですか。

でも物づくりに係わる図工や理科に、もうちょっと力を入れたらいいんじゃないかなと思ってのいるんです。僕は電子技術科なんですけど、物づくりに就きたいと思っている子ども達もいると思うんです。高校生になればそういう専門のところに行って勉強すればいいと思うんですけど、小学校、中学校の時だとやっぱり自分は物づくりが好きか嫌いかな、まだ分からないじゃないですか。だからそれにもうちょっと力を入れれば、そういうことも分かるんじゃないかなと思っています。

〔知事〕

そうかもしれませんね。確かに少し軽んじられているかもしれないよね。小学校、中学校ぐらいの時にちょっとした実験でもやったりとか、あるいは図工をやったりとかすれば関心持たせようと思いますね。

〔参加者〕

やっぱり頭だけで考える学習じゃなくて、自分の手で実験したり。

〔知事〕

そうだね。総合的学習の時間というのがあるけど、そういうところでそれをやればいいんだけどね。先生でそういうことに関心のある人は一生懸命やるんだけどね。

ところで皆さん方は産業技術短期大学校に、どういうことで関心を持ってというか、知って、入学しようと思ったんですかね。高等学校の先生から言われた？そうじゃない。

〔参加者〕

甲府東高校の出身なんですけど、2年上の先輩がこの学校に在学していた時に色々話を聞かせてもらって興味を持ちました。

〔知事〕

就職率は高いし、いいぞと言われたわけですね。

〔参加者〕

先輩が旅行の勉強をしていたんです。授業内容とかを聞いて、いいなと思いました。

〔知事〕

先輩からね、そうですか。ほかはどうですか。

〔参加者〕

私は塩山なので、地元なので知っていたというのもあって。あと就職率がいいというの  
も聞いて決めました。

〔知事〕

何科ですか。

もう就職は決まっているんですか。

〔参加者〕

私は生産技術科です。

御坂にあるサーフビバレッジという、飲料水を作っている工場に決まりました。

〔知事〕

サーフビバレッジ、聞いたことあるね。大体は地元、高等学校の先生から言われたりとか、先輩から聞いたりとか、そういうようなことか。

この学校生活は充実していますか。少し授業がきつすぎるとかさ（笑い）、そういうのはどうなの。

〔参加者〕

そうですね。厳しいです。

授業が100分というのもちょっと長いかなと思います。

〔知事〕

そうですね。それは通常の講義で100分ということですか。何か色々な工作を  
すると、そういうんじゃないかと・・・。

教えるほうも大変だね100分じゃ。（笑い）だけど慣れてきた？

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

そちらのかたは何科ですか。

授業はかなりきつい？楽しいですか。

〔参加者〕

私は情報技術科の1年生です。大変ですけど楽しいです。

〔知事〕

それはいいですね。

何でもいから山梨について思うこととか、余り難しく考えて、いいことを喋ろうと思

わなくていいんだけどね。何か気が付いたことがあれば話をしてみて下さい。

〔参加者〕

リニアモーターカーは山梨県に停まる可能性というのはあるんでしょうか。

〔知事〕

それはありますね。もうそれは100%停まると思っていいんじゃないでしょうかね。

〔参加者〕

それはリニアモーターカー稼働初期からでしょうか。稼働してから早い段階で駅が造られるんですか。

〔知事〕

それはもう最初から、リニアモーターカーが動き出す時からでしょうね。やっぱりのぞみ型、ひかり型、こだま型、まあこだま型まであるかどうか、少なくとも2種類ぐらい、のぞみ型とこだま型とか、そういうことになるでしょうね。

だって駅を作らないなんてね、そんなこととんでもないことですよ。駅がなくてただすっと走るだけじゃあ、公害は余りないかもしれないけれども、地元にとっては何の意味もないものね。用地買収なんていっても、山梨県民はだれも協力しないよね。やっぱり駅ができてこそ、山梨に住む人間にとって意味があるわけだから。

まあ少なくとも一つとか、まあ一つになるか二つになるか知らないけども、駅ができるということになるでしょう。それでなきゃ私だって協力しないですね。だからもう最初の時からそういう駅ができて、さっき言ったひかり型、こだま型とあるけれども、東京・名古屋間をノンストップですっと行くのと、それから各駅に停まるのと両方できるんじゃないですかね。

問題はしかし、各駅で停まるのがどのぐらいの頻度かですよ。1時間に1本ぐらいじゃ困るというようなことを言わなければいけないかもしれませんよね。

〔参加者〕

リニアは南アルプスをぶち抜くんでしょうか(笑い)。もしくは諏訪のほうまで遠回りというルートも確かあったはずですけど。

〔知事〕

あれはAルートBルートCルートという案があって、Aルートというのは確かずっと諏訪のほうへ回って、茅野辺りから木曾路に行くのかな。Bルートというのは同じように行って伊那路に行ってね、そして飯田から行くもの。Cルートというのは南アルプスを真っ直ぐ突っ切る。3つあるわけだけれども。

〔参加者〕

これ以上もう東海側コースはかなり危ないですよ。もう道や鉄道がかなり集中してい

ますから。あそこがもし切れたらかなり危険ですから、まあ北側か、もしくは南アルプスを貫通するというのが妥当なのかなと個人的には思うんですけども。

〔知事〕

そうですね。東海っていっても別に静岡を通るということはないわけだからね。だから諏訪のほうを通って行くか、あるいは真っ直ぐ南アルプスを貫通して行くかということだよ。どっちかということでしょう。

いずれにしても、これはJR東海と国土交通省とかその辺が決めることだから、今の段階ではどっちということは分からないんだけど、例えば南アルプスを突き抜けるとすれば、あそこはフォッサマグナという非常に大きな断層帯が走っているでしょう。だから地質的にみて果たしてそういう行為ができるかどうかということがあるんだよね。

今JR東海がやっているのは、南アルプスのあの中に早川町という町があるんだけどね、そこでトンネルを3キロぐらいにわたってずっと掘って、そして中の地質の調査をしているんだよね。だからもしそれで地形、地質的に南アルプスを突っ切ることができるということになればそういうことになるだろうし、トンネルを掘るのは地質的に非常に弱くて無理だということになれば、そうするとずっと北を回るということになるかもしれないし、まだそのところは分からないですね。

JR東海も、気持ちとしてみれば上に回ると遠回りになるから、お金も掛かるし、時間も掛かるし、だからできることならばこれは真っ直ぐ突っ切りたいという気持ちはあるでしょうね。

〔参加者〕

長野県としては北回りのほうが望みでしょうけど。

〔知事〕

それは長野県知事はそう思っているでしょうね。余りそういう話はしないけれどね（笑）。山梨県はどっちになってもそれは我々としてはいいですよと、協力しますと、こういうことなんですけどね。長野県の、特に松本とか、あっちの人たちはそうでしょうね。リニアができるのが17年後の2025年ということなんだよね。17年というのは先のように早いですよ。リニアができれば山梨に駅ができて、東京から15分ということになるから、山梨もがらっと変わってくるでしょうね。通勤というわけにはなかなかいかないかもしれないけれども。

ところで皆さん方、ロボットの設計をやっているんですか。（机の上を見て）これがそうだね。これは何のロボットですか。

〔参加者〕

それはサッカー競技のロボットです。

〔知事〕

サッカー競技の。なるほどね。こちらのほうにある白いのでサッカーのボールを蹴るん

ですか。

〔参加者〕

そこでキャッチして、ボールから赤外線とか色々出ているんで、それをセンサーで感知してボールの所まで行って、ゴールからもまたそういう周波数なんか色々出ているので、そこに向かって走って行ってゴールを決めるようになっています。全部自動のプログラムを組みます。

〔知事〕

山梨でロボットのコンクールがあるんですか。

〔参加者〕

「ロボコンやまなし」があります。

〔知事〕

ロボコンね。割といい成績をいつも収めているようだね。

〔参加者〕

去年優勝しました。

〔知事〕

優勝した。山梨大学に勝ったということだね。大したもんだな。

今年はまだテーマは決まっているんですか。

〔参加者〕

自動パン食い競技とって、上のほうからパンのぬいぐるみがぶら下がっているんで、マシンで走って行って、先にキャッチしたほうが勝ちというものです。全部自動で走らせるんです。

〔知事〕

早いほうが勝ちなんですね。割と簡単ですか。

〔参加者〕

簡単じゃないです。人間がその場で操作するんじゃなくて、全部プログラムを組んでなければいけないんです。赤外線でどこに物があるか感知したり、道も直線だけじゃなくて、カーブしたりしているんで。

〔知事〕

道が幾つかあるんですか。

〔参加者〕

はい。そして地面に黒い線が引いてあって、そのラインを感知しながら進んでいったり。

〔知事〕

そうですか。そのパンからも電波が出たりするんですか。

〔参加者〕

何もないです。何か信号を出して返ってくることで距離を測ったりとか、そういうことを色々考えながら作ります。

〔知事〕

それは難しいね。黒い道のほうからは何か電波が出ているんですか。

〔参加者〕

線が白か黒かを感知するようなものがあるので、それで黒を間に挟みながら走るようにすれば線に沿って走ることが可能です。それでそのパンの場所に行くように今考えています。

〔知事〕

今作っている最中ですか。

優勝するというのは素晴らしいことですね。そのロボコンには大体幾つぐらい出るんですか。

〔参加者〕

本校からは2台です。2つのゼミでやっているのです。

〔知事〕

山梨全体ではどのぐらいですか。

〔工業振興課長〕

昨年148チームです。

〔知事〕

そんなに出ているんですか。高等学校も出てるんですか。

〔工業振興課長〕

小学生、中学生くらいのクラスもありますし、中学生のクラス、高校生のクラス、それから大学、一般という3つぐらいに分かれております。だいたい3000人ぐらいですね。

〔知事〕

それで優勝すれば別の所に行けるんですか。

〔参加者〕

それはないです。

〔知事〕

全国コンクールってあるじゃないですか。

〔参加者〕

僕たちは今、迷路の中をゴールしていくマイクロマウスというのをゼミで作ってますが、それはスタートが全国大会で、優勝したら外国に行けるらしいです。

〔知事〕

それはすごいね。それは是非、まあいっぺんに優勝するというのは・・・。段々積み重ねて行ってね。

〔参加者〕

全チームのうち半分も完走できないらしいです。

〔知事〕

完走できない。それは迷路の中をロボットのマウスが色々感知しながら進んで行くわけですか。

期待していますから、がんばって下さい。

（机の上のワインを見て）ワインは何ですか。やっぱりワインの注ぎ方とか、そういうのをやるんですかね。

〔参加者〕

そうですね。サービスの仕方とか・・・。

〔知事〕

ローストビーフの切り方とか。

〔参加者〕

そうですね。鶏の捌き方とか。

〔知事〕

ワインの注ぎ方もなかなか難しいようですね。

〔参加者〕

そうですね、コルクの抜き方とか、そういったものもなかなか経験する時間がないので、それが学べるというのはすごくいいなと思ってます。

〔知事〕

大体もう自信がありますか、このワインについては。ちょっとコツがあるようですね。

〔参加者〕

そうですね。コツがあるみたいなんですけど、なかなか慣れるまで時間がかかります。

〔知事〕

頑張ってください。

（前の机を見て）これは何ですか。

〔参加者〕

これは金型です。射出成形機といって、例えばプラスチックのコップとかを大量生産するときに、この型を作っておいて、中にプラスチックを流し込んで作るという機械なんですけども、今は中がよく見えるようにプラスチックで作ってあるんですが、本当は中が見えないんです。

〔知事〕

この型を作って、これにその射出成形機でプラスチックを流し込んで、そして外すと何かできているんだね。おもしろいね。

〔参加者〕

本当はそれだと製品は作れないです。授業で見せるようにプラスチックで作ってあるので、本当にプラスチックを流し込むとそれも融けちゃうんです。融点が低いので。

〔知事〕

そうか、これ自体が融けちゃうのね。

ほかに何か意見だとか、聞きたいこととかありますか。

皆さんお酒を飲んだりするんですか、友達と。やっぱり塩山の駅前とか、あの辺で大体喫茶店に入ったりとか、そういうのをするの。

〔参加者〕

山梨市の駅の前に行きつけの居酒屋さんがあるので。

〔知事〕

山梨市の駅前ね。きれいだよね。

そういう若い人が割とたむろしたりする所というのはどうなんだろう、この辺にはある

のかな。やっぱり山梨市の駅前が多いですかね。

〔参加者〕

駅前もそれほどでもないです。駅付近にもっと居酒屋があれば飲んでも電車で帰れるので、もっと作ってくれと助かります。

〔参加者〕

自分は早川町が地元なんですけど、やっぱり南巨摩のほうにも雨畑硯とか・・・。

〔知事〕

早川町から通っているわけじゃないでしょう。

〔参加者〕

今は石和のほうに住んでいます。実家が早川町で、雨畑硯とか中富の和紙とか、六郷のはんことか、そういった有名なものがあるので、そういったものをPRするだけじゃなくて、小さい子どもたちが作ったり、学べたりできるツアーというか、そういうものができたら、南巨摩の観光客もちょっと増えるのかなとか思ったりしています。それは山梨県にもプラスになるのかなというふうに考えているんですけど、どうなんですか。

〔知事〕

富士川クラフトパークって行ったことありますか。あそこにあるよね。

〔観光振興課長〕

ガラスとか陶芸とか、木工、<sup>てんこく</sup>篆刻、紙漉きとか、いろんな体験ができます。

〔知事〕

行くと面白いよね。実際実演しているんですね。

〔参加者〕

そうですね、小さい頃自分も行って作ったりしたんですけど、なかなかこっちは知らない子たちが多くて、「どこ、それ？」なんて言われちゃったりするので。

〔知事〕

遠足でも何でも行けばいいんだよね。

〔参加者〕

そうですね。だからそういう機会があればいいのかななんて思います。そうすれば物づくり的なものに興味を持ってくれるのかなと自分は思ったりしました。

〔知事〕

やっぱりお役所がやっているのはだめでね、PRしないから。民間会社なら一生懸命PRして、小学校でも行ったりしてね、こういうものがありますから是非遠足に使って下さいとか、そうやるんだけど、役所がやっているとはだめなんです。そういうことをやらないよね。

〔観光振興課長〕

出前体験と言って、学校へ行って陶芸体験とか、そういった活動もやっております（笑い）。

〔知事〕

やっているうちに入らないんだよね。

〔参加者〕

そういった件に関しては、私の個人的なアイデアですけど、例えばYBSとかでジャニーズタレントとかを使って（笑い）、親方に弟子入りするようなドラマを流したり、予算の関係で難しいと思いますけど。効果としては多分そういったものが一番大きいのかなとは思いますが。

〔知事〕

若い人に関心を持ってもらうには、確かにそうかもしれませんね。

〔参加者〕

もしくは物づくりNC旋盤のバラエティー番組を延々と流すとか（笑い）、そういったことも。

〔知事〕

山梨もフィルム・コミッションというのがあって、要するに映画とかテレビドラマとかを作るでしょう。それをどこかでロケをしますね。そのロケに山梨に来てもらいたいということで誘致をするわけです。そうすると結構その映画を作る人たちが来るわけですよ。割と最近多くてね。

〔参加者〕

よく山日新聞にも下のほうに色々紹介はされていますね、ここでロケしましたとか。最近もありましたよね、映画のタイトルを忘れてしまいましたけど。

〔知事〕

あの「西の魔女が死んだ」というのとか、それから「休暇」とか「きみの友だち」なんかですね。「休暇」とか「西の魔女が死んだ」というのは日本映画としては東京では結構あっているんだよね。

〔参加者〕

さっきの早川町のPRを、と言っていましたけども、山梨県のデスティネーションキャンペーンをやったじゃないですか。ああいうのを山梨県内でやったらどうかと思うんですよ。2年に1回とか決めておいて、今回は清里と決めたら、清里だけをすごいやって、その2年後にはまた早川町なら早川町という感じで、お祭りの感じにして話題性を振りまいたら効果が出ると思うんですけど。

〔知事〕

この人が専門家なんだけどね（笑い）。

〔観光振興課長〕

本当にここの中央線もSLが走ったり、全国から来て下さいという宣伝を一生懸命やってるんですけど、実際は観光客の3割の人って県内の人なんです。ですから県内の人が県内の観光地に行くと。

いろんな学校を回ると、特に若い人は観光地に行っていない。こちらの観光ビジネス科はいろんな所を見に行ったりしているから知っていますが、ほとんどの若者は知らないというので、魅力メツセンジャー認定講座というのを、県内の大学や短大など8カ所でやりまして、学生さんに山梨の魅力を知ってもらおうという事業はしています。

おっしゃるように集中的に一箇所をというと、よその人たちから突き上げが来てしまって、なかなか厳しいものがあるんですが、ただいろんな所のいろんな魅力はそれぞれ取り上げています。例えば北巨摩だと高原、今「日本一の朝プロジェクト」という、朝ヨガするとか、朝風呂に入るとか、朝トレッキングするとかというふうなメニューをNPO法人がやっていまして、そういう特徴的な活動の宣伝はさせていただいています。

〔参加者〕

地域全体を一度にと言うのは大変だから、一地区に絞ってやったらどうかなと思うんです。

〔知事〕

よく参考にしてください（笑い）。

〔参加者〕

観光のことなんですけど、よくJRの広告で、階段の登り口とかに岩手とかの広告があるんですけど、山梨に旅行に来た観光客がそれを目にした時に、山梨に来たのに平泉の広告があったり青森の広告があったりするはどうなのかな、というのをちょっと疑問に思っています。

〔知事〕

あれはこの間までやっていたデスティネーションキャンペーンみたいなものを行っているということだよ。

〔観光振興課長〕

山梨県のデスティネーションキャンペーンをJR6社、全国のネットワークでやる時には、山梨を集中的にしましょうということで、山梨のポスターが北海道にあったり東北にあったり、駅に貼ってあるわけですね。ですからそういう所から来て下さいというポスターなんですよ。

〔参加者〕

でもそれしかないんです。山梨の駅に山梨のポスターというのが少なかったりするんで、やっぱりちょっと山梨に来た観光客相手に、他県の広告をするのはちょっとおかしいと思ったんです。

〔知事〕

観光案内板みたいなものが必要だということかな。観光案内板というか、来ればここにはこういう所があるよ、こういう所もあるよというような、まあ写真が入ってね。そういうのはあるんだろうかね。

〔観光振興課長〕

結構、駅々には、石和の駅にも看板なり、そういう名所が出ているものもあるようです。

〔知事〕

観光案内所に行くとあるんだよ、色々ね。

〔参加者〕

そこは1回敷居を跨がなきゃいけないじゃないですか、観光案内所って。やっぱり甲府の改札を出た瞬間に、そこに東北地方の手作りのプレートがあったりしたんで、それがちょっと・・・。

〔知事〕

いい場所にありすぎるといことか、よその県の広告がね。だから山梨の甲府の駅の改札を出た所というのは一番やっぱり電車で来るお客に目に付く所だから、そういうところにはやっぱり山梨のPRの何かがあったほうがいいじゃないかということですね。まさにそれこそ「週末は山梨にいます」ああいうポスターがね。

〔観光振興課長〕

甲府駅をお願いします。

甲府駅は改札のすぐ上のところに「週末は山梨にいます」の旗が何十枚とぶら下がってお迎えはしておりますし、この間甲府駅の案内所もリニューアルしたばかりですけど、多分まだまだ足りないということですよ。



ね。そこまではなかなか法律でも抑え切れないんです。だけどなるべく抑えていかなければいかんと。ああいう果物畑とか、そういうのを保全をしていかなければいかんという方針ではいるけれども、まあなかなか抑え切れないということですね。

それでも山梨は割と規制がきついほうでね、簡単には転用できないんですよ。むしろ今は農家のほうが、もう年も取ったし、息子が後を継いでくれるわけではなし、もう自分の持っている農地を住宅にでも売っちゃったほうがいいやと、そういう人が多いんだよね。だから段々そうやって農地が改廃していくんだよね。

〔参加者〕

20年、30年掛けて農地を山梨県の物ということに、共有地化ということはできないんですか。

〔知事〕

共有地化ですか。

〔参加者〕

やはり土地の私有財産を認めている以上、もう避けられない問題ですから。逆に20年、30年掛けても相続のタイミングでうまく没収して行った方が（笑い）、言葉は悪いですけど。土地の私有財産を認めているというのは、一つの枠で固定されてしまって、その枠の中でしか動けないという制約があるから、そこから抜け出せないかな、というところがちょっと思うところではあるんですけど。

〔知事〕

まあそれは憲法の改正がいるからね。まあ私有財産制というのは基本的な、現在の憲法の資本主義、民主主義、市場経済を前提としている社会だから、基本的なものだからね。

〔参加者〕

農地だけでも無理なんですかね。

〔知事〕

今、農地はさっき言ったように非常にきつい規制があるけれども、そこまででしょうね。公有地にするとすればやっぱりそれはお金を出して買うということだよ。そうすると莫大な費用が掛かるからね、簡単にはいかないですよ。

日本というのは、非常に土地に対する個人の権利というのは強くてね。ヨーロッパにしたって、例えば中国なんか社会主義社会だからかもしれないけれども、所有権があつてなきが如しでね、基本的には国家の所有なんだよね。だから再開発をやるにしても簡単でね。ぱっと、ここにこう再開発しますなんて決めて、後は、はい、みんな立ち退いてなんていってね、多少お金はもらうんだけど、強制的に立ち退かされてしまう。

〔参加者〕

もう住んでいる人が直したくても直せないというような事例も中国ではあると聞きますし。

〔知事〕

ほかには何かありますか。

〔参加者〕

自分が考えていたことを先に言われてしまって、似たようなことになってしまうんですけども、私も1年生の後半と2年生の前半にかけて就職活動をしたんですけども、私の仲間も同じように就職活動をしておりまして、私の目から見てもよくがんばっているとか、この人はすごいなとかって思う人はやっぱり東京とかに目を向けて、そっちのほうで活動をして、それで内定をいただいているという状況があるんですね。やっぱり魅力ある企業に行きたがるというのは本心で、東京に行きたがって県内に就職することができないという状況をよく見えています。

〔知事〕

なるほどね。あなたは観光ビジネス科だったんですね。観光ビジネス科でも3倍近い倍率だからね。まあいろんな企業からたくさん応募が来るわけでしょう。そういう中から選べるわけだからいいけど、しかしその中でも特に魅力があるものとなるとやっぱり東京の企業が多いということになるんだね。

〔参加者〕

大勢のお客様を対象に自分の技術を提供できるので。

〔知事〕

特に観光ビジネスというようなものはやっぱりそうでしょうね。東京の一流のホテル会社とか、そういうのから来ればね、それは魅力があるよね。そこを一つ我慢して、山梨県内に勤めてもらいたいんだよね（笑い）。

確かに東京の一流ホテルに勤めるというのも一つの考え方かもしれないけれども、一回勤めて将来また山梨に帰ってくるとか、そういうことも一つ修業のつもりでやるのもいいかもしれないけれども、しかし山梨は何と言っても観光でやっていかなければならない県だからね。甲府とか、あるいは富士五湖地域にも非常に素晴らしいホテルがあるし、これからますますできてくると思うので、是非がんばってもらいたいですね。確かにおっしゃるようなできるだけいい企業を誘致をしてくるというのは県の責任ですよ。これからはがんばりたいと思います。

だけど観光客がずいぶん増えてきているからね。外国人観光客が増えているからね、まあ中国人が多いんだけど。やっぱり彼らは大体英語が喋れますかね。ある程度喋るよね。君は中国語はどうですか。

〔参加者〕

僕は中国語はちょっと・・・。分からないです。

〔知事〕

観光ビジネス科となると、やっぱりある程度英語が必要になってきますね。まだ卒業まで間があるからよく勉強して・・・。もっとも就職すれば日常的に英語を使うから、できるようになるかもしれないけどね。

あなたはもう決まっていますか。

〔参加者〕

はい、私は決まりました。

〔知事〕

どこになったんですか。

〔参加者〕

私は東京なんですけども。

〔知事〕

良かったね。優秀な人は東京に行く（笑い）。

どこへ行く事になった？

〔参加者〕

私鉄です。車掌業務をします。

〔知事〕

車掌業務をやるの。へえー、それもやっぱりホスピタリティなものね。私鉄へね。そうですか。車掌業務って電車の中に乗るんですか。

〔参加者〕

そうですね。アナウンスをしたり、ドアの開け閉めをしたりします。

〔知事〕

小田急のロマンスカーとかあるじゃないですか。ああいうのね。

どちらなんですか。

〔参加者〕

東急です。東急は基本的に女性を採用して下さっているのです。

[知事]

東急、いいですね。  
女性の車掌さんを採用しているんですか。

[参加者]

そうですね。車掌は女性限定で20名ということで、募集がかかったんです。

[知事]

それはいいですね。最近は新幹線などもほとんど女性ですね。新幹線も応募が来たかな。

[参加者]

いいえ、自分から行きました。応募は来なかったです。

[知事]

ああいう所から応募が来るぐらいになるとすごいんだけどね。  
あなたは何かありますか。

[参加者]

外国の方が観光に来ると聞いていましたが、山梨のこういった所を観光したり興味を持っていたりするんですか。

[知事]

やっぱり富士山だね、何だかんだ言っても。やっぱり圧倒的に富士山を見たいんですね。  
外国人観光客で富士山を見るというのは何パーセントぐらいだったかな。

[観光振興課長]

全体では88万人来ているんですけど、富士北麓に20万人泊まっているという数字がありますので、富士北麓に泊まっている人というのはほとんど富士山目当てに来ているというふうに思います。

[知事]

まあ富士山なんですよ。山梨に来る外国人観光客の大部分が富士山五合目まで行って、それから富士五湖辺りを観光してあそこに泊まるとか、あるいはそのままずっと下りてきて八ヶ岳辺りを見たりとか、石和温泉に泊まるとか、あるいは長野県に行ったりとか、そういうことなんですね。

大体成田に降りて東京に一泊して、東京でいろんな買い物をして。最近は余り秋葉原には行かなくて銀座辺りが多いようだけど、銀座のデパートも中国からのお客さんが多いようですね。それで買い物をして、従来はバスで箱根を通過して箱根から富士山を見て、だから芦ノ湖を見てこれは富士五湖だと間違っている人がいるんですよ。それから京都か奈良に行って、大阪の関西空港から帰るといのが多かったですよ。

だけでも最近箱根のほうじゃなくて、山梨県側の富士五湖のほうに入ってきて富士山を見て、そして京都、奈良へ行くと。あるいは北のほうをずっと行って立山黒部アルペンルートを通っていくとか、いろんなルートが出てきましたね。しかし基本的には山梨の観光というのは富士山が中心に、少なくとも外国人観光客はそうだとということでしょうね。だから富士山に来るお客をどうやって山梨に留め置いて、こっちの甲府盆地のほうに誘導してくるかというのが課題ですよ。

〔参加者〕

学校の話に戻ってしまうんですけど、本校から進学するには東京の職業能力開発大学校に行くしかないんですよ。本校のような厚生労働省所管の学校からでも山梨大学のような文部科学省所管の学校に編入さえできれば、高度なことが勉強できるので、本校のような技術系学校に進学してくる高校生も増えると思うんですけど、そこはどうでしょうか。

〔知事〕

そうですね。これは山梨大学の先生、学長さんとそういう話をしているんですよ。あなたはよく知っているようだけど、厚生労働省系の学校で文部科学省系の学校じゃないものだから、うまくカリキュラムとかが合わないというようなことがあるんですよ。だけどその所を何とかうまく合わせていけるようにならないかなということがあるんですよ。

ただ、例えば山梨大学の3年に編入となると1年、2年でやっているようなカリキュラムは、ここの学校でこなさなければいけないわけだからね、だからカリキュラムをかなり変えなきゃいけないとか、そういう問題があるかもしれませんね。

〔参加者〕

それさえできればそういうことも可能なんですか。

〔知事〕

これはどうですかね。

〔職業能力開発術課長〕

今知事から話がありましたとおり、今のところは厚生労働省の職業能力開発施設ということになっていますので、相互の利用は一応できないという建前になっています。

ただそうは言っても、やはり規制緩和の中で、各省庁の縦割りそのままでもいいのかというような話もございますので、例えばあと専攻科とかですね、そのような課程である程度深く学んでもらった上で相互乗り入れするというようなことも一つ検討していかなければならないと思います。ただちょっとまだ検討段階でございますので、今後どうなるかは分かりませんが、そのような状況です。

〔知事〕

「ものづくり大学」ってあるよね。あそこは行けるんだよね。

※ものづくり大学＝ものづくり産業の発展を担う人材の育成を旨とし、国と産業界の

支援を受けて設立された大学。従来の理工系大学とは全く発想を変え、ものづくりの原点に立ち戻り、実技・実務教育を重視している。埼玉県行田市に所在。

〔参加者〕

去年から大学の学長が認めればという項目を削られちゃったんですね。だからものづくり大学も行けなくなっちゃったんです。

〔参加者〕

東京にもし行ったとしても、東京のほうで就職しちゃうことになって、県内に留まるという人が減ってきちゃうと思うので、できれば県内の大学に行けば山梨県内の産業界に就けるので。

〔知事〕

それはそうですね。

〔司会〕

それはやっぱり皆さんそう思っているんですか。

〔参加者〕

僕は山梨県に残るつもりです。

〔知事〕

カリキュラムをかなり調整しないといけなくなるんですよ、きっとね。まあ皆さんは2年間で実務を身に着けてもらうということでかなり実践的なカリキュラムをやっていると思うんだよね。大学は4年だから最初の2年ぐらいはかなり基礎的なことをやるからね。その辺を調整しないとできないということがあったりするんでしょうね。それができればできるはずだからね。まあ例えば制度とか、そういうものを変えれば。

〔職業能力開発課長〕

できるかどうか検討中で・・・。あとは基礎的なものをやる専攻科を設けることによってカバーできるかどうかとか、そういうところです。

〔参加者〕

富士山のことなんですけども、昔富士山クリーン活動ということで富士山のごみを拾いに行ったんですが、ごみの中でガムが一番多いんですよ。ところがそのガムを売店で売っているんです。だから下の売店でガムを売るのをやめたほうがいいんじゃないかなと思うんです。

[知事]

銀紙に包んでガムが捨ててあるんですね。

[参加者]

そうなんです。富士山をきれいにしようと言っているんですけど、実際はその売店でゴミを出しているように感じちゃうんですよ。

[知事]

ガムなんていうのは一番捨てやすいと言えば捨てやすいからね。かと言ってガムを売るなというわけにもいかないし。

やっぱりマナーの問題ですよ。でも最近はずいぶんきれいになってね、去年私も行って御中道（おちゅうどう）というのかな、ずいぶん歩いてみたけども、ないんだよね、ゴミがなくて、本当に最近はきれいになりました。

5、6年前に富士山を世界自然遺産にしようなんて言ったけれども、汚れているからだめだなんて言われてね、ずいぶんボランティアの皆さんが来て掃除していったよね。今でもやってくれているけれどね。じゃあ君は中学生ぐらいの時にいったんですか。

[参加者]

中学生ぐらいの時にいったんです。

[知事]

それはご苦労様でした。

[参加者]

環境の話になったのでその関係で。僕は昔よく川で遊んだんですよ。その頃はホタルがいたり、川に魚がいて釣りをしたりしたんですけど、たまたまこの間友達と同じ場所に行ってみたら道が造ってあって、川にも人工的な石のようなものが置いてあったんです。昔は泳げた所も泳げなくなったり、ホタルがいなくなったり、道を造るのは仕方ないんですけど、自然も保護したほうがいいのかと思います。

[知事]

それは笛吹川ですか？

[参加者]

自分の家は御坂の藤野木（とうのき）なんですけど、そこはまだそんなに手が付けられていないのできれいです。友達の近くの川に行った時にそう感じました。

[知事]

まあ道路を造るのは、これは必要があって造るもので仕方がないんだけどね。最近はずいぶん予算も少なくなりましたから、無駄なものは造れないし、本当にその地域地域から

要望が強いものだけを造っているわけだけどね。しかしやっぱりそういう自然と調和させるようなことは考えていかなければいけないでしょうね。

川を整備するにもコンクリートで固めちゃうとかね、そういうようなことはしないように、自然の川を残すようにしながら工事をやっていくとか、そういうことは必要ですよ。段々そういうふうにはなってきたんですが、おっしゃるとおりですね。

〔司会〕

大体予定した時間になりつつあるんですが、何か言い足りないことがあったら、どうですか。

〔参加者〕

たまに見かけて不快になるのが、たばこを歩きながら吸うのと、運転しながら携帯電話を使うことなんです。山梨県でそういったことを禁止する条例ができる予定はあるんでしょうか。

〔知事〕

今のところ禁止する条例は作っていないんだけど、運転中の携帯電話は、これはもう道路交通法違反だから警察が取り締まりますよね。あとはくわえたばこですね。これを禁止する条例を作っているところは千代田区とか、ほかにもそういう所があることはあるよね。山梨ではまだそこまで考えていないんだけどね。段々そうになっていくかもしれないと思いますけどね。

それよりたばこを1箱1000円にしてね(笑い)。まあ1000円はともかくとしても、今250円くらいだから、今度上がって500円ぐらいになるでしょうかね、きっと。1000円になっても、今たばこを吸っている人がそのまま吸い続ければ、9兆円歳入があるって話もありますね。当然のことながら吸わなくなる人が多くなると思いますが。

なかなかまだ山梨では、たばこを吸いながら歩く、くわえたばこを禁止するというところまでは行きにくいですね。でも一時期に比べれば少なくなったじゃないですか。

〔参加者〕

そうですね。でも逆に少ないからこそ目に付くということもあります。

〔知事〕

そうですね。

〔司会〕

何かご意見はありますか。ないようでしたら、知事さんから若い人たちに、激励の意味も込めてひとことお願いします。

〔知事〕

最初に言ったように、皆さん方には山梨県の企業の方が大変に期待をしていますから、

是非がんばってもらいたい。東京に行っても将来はまた山梨に帰ってくるぐらいのつもりで、東京でがんばってもらいたいと思いますね。

それからさっきも言ったように、企業に行くとはやはり前向きの意欲と、それからコミュニケーション能力、協調性ですね、そういうことを求められるから、そんなことを頭に置いてがんばってもらいたいと思います。

それからロボコンもまた優勝するように、全国大会でも入賞するぐらいがんばって下さい。それでは皆さんありがとうございました。

〔全員で〕

ありがとうございました。

〔司会〕

今日は皆さん、夏休みなのに集まっていたいただきましてありがとうございました。言い足りなかったようなことがありましたら、山梨県にクイックアンサー制度というのがあります。県に対する質問、それから意見、何でも言う事ができます。ホームページからも入れますし、ここにも用紙があるかもしれませんので、思い付いたら是非お願いします。

今日は本当に皆さんありがとうございました。